

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス事業所 ウィング・ケアサービス			公表日	令和 7年 1月 5日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		階段を使用する際は、必ず職員がひとりひとり見るよう順番に下りるように努めている。 ワンスペースなのでバリアフリー化はできている。	個別に集中できるスペースが欲しい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		破損等痛みの見られる玩具等速やかに破棄し、常に清潔と安全を保つために除菌を徹底している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		トンネル遊具の中で暫く静かに過ごし、感情を落ち着かせることができている。	道具を使ってスペースを作る工夫はあるが、スペース確保が出来ていない。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8		職員の議論の場が、十分に設けられている。	文章化することで一層理解できる（視覚化）と思うので、今後の工夫が必要。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		直ぐに共有できる場がしっかり確立されている。	共有することを共通の場を設け、解答や解決策を明らかにする。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		個々に意見がしやすいと感じる環境だと思います。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	1	小規模な事業所であるため、必要性は感じられない。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8			職員の意識にもよると思うが、新しい課題について研修する必要があるのではないかと。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		個人で見やすく記載されている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8			個別のプログラム作成を充実する必要あり。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8			1人1人の指導員のライフワークを活かす覚悟、職員の掘り起こしが必要。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8			本人支援は個々に現状と課題を明確にしているが、その具体性を短期（当面の実践）と成果について、職員で共通理解をして家庭への啓発に広げる必要あり。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8			内容にもよるが、専門職からの具体的な提案を求めることもありかも。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		定着化、固定化は違うので、そのところは工夫されていると思う。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	放課後等デイサービス事業所 ウイング・ケアサービス			公表日	令和 7年 1月 5日	
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		短時間での支援が多い中で集団と個別が無理なく実施されている。	個別については質の向上の点から、常に吟味が必要ではないか。	
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		支援についての相談などしやすい環境になっている。		
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8			支援終了後（次回打ち合わせ）の時に行っているが、職員は視座を忘れずに発言する意識を持つようにしたい。	
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8				
23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		安全面でのモニタリングは出来ている。	子ども達の変化は大きい。常に柔軟な見直しができるシステムが不可欠。	
24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8			4つの基本活動では、具体的な活動が見えにくい。	
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8		随時新しい知育玩具を取り入れたり、ステップアップをさせたりしている。		
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6		管理者が広い視野に立って、真摯に他領域、他機関との連携・協力を推進している。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	3		
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	8			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		送迎時保護者様と、何気ない会話もできている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8			経験値は十分にあるので、具体的な行動として視覚化・見える化して実行してもよいのではないか。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	放課後等デイサービス事業所 ウイング・ケアサービス			公表日	令和 7年 1月 5日	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		細かな対応ができています。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		細かな対応ができています。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8		細かな対応ができています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		細かな対応ができています。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	2		交流会や見学会などのようなものを持ってはどうか。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	8			継続的に連絡帳等の媒体の活用が出来ている。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8			交流会や見学会などのようなものを持ってはどうか。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8			マニュアルが活きたマニュアルにするための実践や訓練、疑似体験がしっかりとできています。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8			実践や訓練ができています。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8			保護者からの情報提供を受けて、対応できている。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8			マニュアルが活きたマニュアルにするための実践や訓練、疑似体験がしっかりとできています。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8			多様な媒体での可視化が必要。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8			職員が日々意識して支援することが出来ている。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8			